

公刊にあたって

皆様のご協力のおかげで「わが国の慢性透析療法の現況（2008年12月31日現在）CD-ROM版」をここに発行する運びとなりました。

「わが国の慢性透析療法の現況」（以下、「現況」）の歴史は、1968年に透析医学会の前身である人工透析研究会が発足以来、事務局を率いておられた千葉大学の小高通夫先生が、事務局の業務としてはじめられたアンケート調査に始まります。1986年に人工透析研究会内に統計調査委員会が発足し、初代委員長に小高通夫先生が就任されました。1989年、京都大学澤西謙次先生が第二代、1990年より前田憲志名古屋大学教授が第三代委員長に就任され、ほぼ現在の統計調査の形態が構築されました。他疾患領域には類をみない、慢性透析患者に関する詳細な統計成果が、会員に報告されるようになりました。

2000年には秋葉隆東京女子医科大学教授が第四代委員長に就任するとともに、統計調査委員会事務局を名古屋大学から透析医学会事務所内へ移動されました。その後、コンピュータシステムの変更、さらには「現況」を従来の紙ベースでの出版からCD-ROMによる配布に変更されました。同時に、重要データを図表化した速報「図説 わが国の慢性透析の現況」（以下、「図説」）の配布が開始されました。また死因コードの国際標準への移行、「倫理」「個人情報への配慮」および「利用規程」の決定が行われました。

この間、本調査データを用いた様々な解析研究が行われ、日常診療に関するエビデンスとなり、様々なガイドライン作成のエビデンスとしても用いられ、透析患者の生命予後やQOL向上に貢献してきました。

2006年から私が第五代委員長を拝命し、この様に偉大な先達の後を継がせていただくこととなりました。

まず、蓄積された貴重な財産である調査データの質の向上、蓄積データクリーニング、解析システムの構築などを目標に掲げ、これを行うための事務局機能および、統計調査委員と地域協力委員の協力体制の強化を行ってきました。さらに本格的な調査データの解析の目的で、統計調査小委員会を廃し、統計解析小委員会とし、5名の若手公募委員を選任いたしました。この様な基盤整備が整った段階で、昨年度から会員からの公募研究を募らせて頂いた所、多数の応募をいただきました。従来の委員会研究と公募研究に対応する事となりましたが、公募委員を始め解析小委員の統計解析能力のみで十分対応可能となったため、解析業務を委託してきた日本科学技術研修所との契約を解消し、独自で行うこととしました。本年度も公募研究を募集しますので、本CD-ROMの内容も参考に、興味有るテーマがあれば、是非応募いただければ幸いです。

次に2008年末現在の慢性透析患者調査の経過および結果を報告します。本統計調査の対象となる慢性透析療法実施施設名簿を、本学会施設会員施設名簿に加え、地域協力小委員会の先生方のご協力により非会員施設、新規開設施設を網羅し、2008年10月に作成いたしました。2008年末の対象施設数は4,124施設と2007年末(4,098施設)と比べて26施設増（0.6%増）となりました。

同対象名簿を基に11月末にUSBメモリ（要望が多かったUSBメモリを本年から導入）、フロッピーデスクまたはCD-Rとアンケート用紙を送付し、回答をお願いしました。結果、施設調査であるシート1の回収施設は4,081施設（前年CD-ROM版集計4,052施設）であり、回収率99.0%で前年（98.9%）とほぼ同等の結果が得られました。一方患者の背景調査であるシート2、3、4の未回収も129施設（前年CD-ROM版集計199施設）と大幅に減少し、全体としては、慢性透析患者の現況を示す統計資料としての質を担保する回収率を維持することができました。また患者調査に関しては、アンケート用紙での回答施設が減少し、電子媒体での回答が昨年の72.4%から79.5%に増加し、回収後の作業効率が上がるとともに、間違いも減少するものと考えます。この要因にはUSBメモリの使用が影響していると推測され、継続したいと考えています。

また昨年、「図説」の作成後も、調査データの質の向上を目的に、多数の施設に対し、データの再確認・再調査を行いました。本CD-ROMデータは再調査結果を反映していますので、「図説」データ（速報）より正確となっており、本調査データを「調査年度末データ」と定義する事としました。また、次年度にはさらに、調査漏れデータが出現するため、これを反映させたデータを、「調査年データ」と定義し、確定データとして取り扱う事になりました。

2009年日本透析医学会学術集会において速報の「図説」を施設会員に配布し、透析医学会ホームページにも全文を掲載していますが、これをさらに利用しやすくするため、本CD-ROMには、全文を掲載すると共に、

各図表をパワーポイントファイルとして収載していますので、ご利用いただければ幸いです。

以上、高い回収率で「わが国の慢性透析療法の現況（2008年12月31日現在）CD-ROM版」を公刊できるに至りましたのは、会員をはじめ調査にご協力をいただきました皆様の、本統計調査に対するご認識の深さとご協力の賜物であります。厚く御礼申し上げます。

また本帳票もご覧頂き、公募研究にも応募いただければ、幸いです。

その他の解析要望は、統計調査委員会、あるいは各地域の統計調査委員、統計解析小委員を介して申し出て頂きたいお願い申し上げます。

本CD-ROM版には基礎集計とともに、透析液水質管理状況、2002年以来行っていなかったダイアライザの種類などの透析条件の調査結果、透析条件と各種データとの関係、新規調査項目として行った透析前後のナトリウム、カリウム、重炭酸イオン濃度、バスキュラーアクセスの現況の詳細が含まれています。さらに2007年導入患者の生命予後に影響を与える因子に関する解析結果、HCV抗体の新規陽性者発症率、大腿骨頸部骨折の新規発症に関連する因子に関する解析結果も収録されています。

統計調査委員会としましても臨床に役立つ情報をできる限りご提供できますよう、更には会員各位の様々な解析依頼にも対応すべく努力しなければならないと考えております。統計調査記載にご協力いただいた皆様、ならびに全国の地域協力小委員会の先生方のご努力に重ねて深く御礼申し上げます。

社団法人 日本透析医学会 統計調査委員会
委員長 椿原美治